

教科名	国語		科目名	論理国語			必修	
科別	普通	科学年	2年	コース名	特選	コース	3単位	文系
教科書（発行所）	精選論理国語(明治書院)							
副教材（発行所）	高校生のための現代思想ベーシック ちくま評論入門(筑摩書房)、三訂版入試頻出漢字＋現代文重要語彙TOP2500(いいずな書店)							

学 習 目 標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力を伸ばす。 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	論理的な文章における語彙の量を増やす。 文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	論理的に文章を読み、文章や資料等の情報の正誤や適否を吟味しつつ考えることができる。 批判的に考える力を養い、他者と伝え合うための読解力・文章力を伸ばすようにする。
	主体的に学習 に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1世界・地域【書くこと:自分の主張を立てる】 ①二一〇〇年の世界地図(峯陽一)	・世界の課題について、情報を収集し、目的に応じて整理する。 ・情報を整理する活動を通して、進んで題材を決め、学習課題に沿って論述するなかで、自らの学習を調整する力を養う。	準備課題提出 確認テスト
	5	1世界・地域【書くこと:自分の主張を立てる】 ②「流域地図」の作り方(岸由二) 2社会行動【読むこと:構成を把握する】 ③行動変容を起こす有効な方法(大竹文雄)	・資料を読み「霞堤」の問題点を整理して、「遊水地」を整備するという対策は妥当か、自分の意見を述べる。 ・自分の生活あるいは社会における不合理な行動事例の一つあげ、本文の内容や表を踏まえて事例を分析し、有効な対策について話し合う。	中間考査
	6	2社会行動【読むこと:構成を把握する】 ④「家族の幸せ」の経済学(山口慎太郎) 3日本文化【書くこと:論の想定】 ⑤「間」の感覚(高階秀爾)	・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。	
	7	3日本文化【書くこと:論の想定】 ⑥日本文化の雑種性(加藤周一)	・仮説を立てたうえで、反論を想定して、意見文を書く。また、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	4哲学・認知【根拠の検討】 ⑦猫は後悔するか(野矢茂樹) ⑧学びとは何か(今井むつみ)	・筆者の主張と関連する根拠・例示を見つけ、そのふさわしさを検討する。 ・「記憶」に関する筆者の考えを整理し、その考えを支える論拠とされているものの妥当性を検討する。	夏季課題提出 確認テスト
	10	4哲学・認知【根拠の検討】 ⑨生命倫理と自由(大澤真幸) 5環境・科学【読むこと:多角的評価する】 ⑩なぜ科学を学ぶのか(池内了)	・生命倫理についての考え方を批判的に検討したり、広く調べたりして、その内容をまとめる。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する力を養う。	中間考査
	11	5環境・科学【読むこと:多角的評価する】 ⑪人類による環境への影響(鷲谷いづみ) 6技術・規範【書くこと:総合的な推敲】 ⑫いのちのかたち(西谷修)	・地球生態系について、本文の表現の特徴から評価し、自分の考えをまとめる。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めて使えるようにする。	
	12	6技術・規範【書くこと:総合的な推敲】 ⑬AIと憲法的価値(小塚莊一郎) 7芸術【読むこと:比較読み】 ⑭水墨画入門(島尾新)	・「AIと憲法的価値」について考え、筆者の主張が的確に伝わるようにまとめる。 ・資料をもとに、筆者の主張を批評する。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	7芸術【読むこと:比較読み】 ⑮石上私淑言(本居宣長) 8経済・資本【読むこと:筆者の考えを批評する】 ⑯熱帯の贈与論(奥野克巳)	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期		8経済・資本【読むこと:筆者の考えを批評する】 ⑩貨幣は言葉である(丸山圭三郎)	・論理的な文章を読み、多様な論点を踏まえ、その内容を批評する活動を行う。 ・大学入試に対応できる力を養う。	
	2	問題演習①(共通テスト対策)		
	3	問題演習②(共通テスト対策)	・大学入試に対応できる力を養う。	期末考査 課題学習

教科名	国語		科目名	古典探究			必修	
科別	普通	科学年	2年	コース名	特選	コース	3単位	文系
教科書（発行所）	精選古典探究古文編(明治書院)、精選古典探究漢文編(明治書院)							
副教材（発行所）	読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版・基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版演習ノート(桐原書店)、基礎から解釈へ 漢文必修四訂版(桐原書店)							

学 習 目 標		日本文化の特質や、中国など諸外国の文化との関係について理解を深め、言葉がもつ文化の継承・発展・創造に寄与する働きを学ぶ。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	古典に用いられる語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	思考・判断・表現	古典の文章に表れているものの見方・感じ方・考え方をふまえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品の価値について考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	【古文編】 ◇説話 沙石集「兼盛と忠見」 単元の言語活動 歌合わせの判者になってみる	・説話の面白さに親しみ、平安期の人々の生き方や考え方などを学ぶ。 ・動詞・助動詞の意味や用法を理解する。 ・歌合わせの判者になり、批評を書くことを通して表現や文法を理解する。	準備課題提出 確認テスト
	5	【漢文編】 ◇故事成語「漱石枕流」「不死之薬」 【古文編】 ◇随筆 徒然草「これも仁和寺の法師」	・漢文訓読の決まりを理解する。故事・寓話の面白さを味わう。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・人々がなぜ無常観という思想を持つようになったのか、時代背景を理解する。	中間考査
	6	【漢文編】◇史話・史伝 十八史略「背水之陣」 【古文編】 ◇物語 伊勢物語「初冠」/『伊勢物語』のパロディーを読む	・句形や漢字の意味・用法を理解する。歴史書の面白さを読み味わう。 ・和歌の表現上の特色を理解し、ものの見方や感じ方を豊かにする。 ・パロディーを読み、古典の受け継がれ方や受け入れられ方を学ぶ。	
	7	【古文編】 ◇物語 平家物語「壇の浦」 (建礼門院右京大夫集「この世の外に」)	・「壇の浦」を朗読し、平家物語の表現の特徴を味わう。 ・軍記物特有の語彙や語法を理解する。 ・『平家物語』と『建礼門院右京大夫集』をあわせて読み、戦乱の世に生きる人々の生きざまや心情を読み取る。	期末考査 課題学習
第2学期	9	【古文編】 ◇随筆 枕草子「うつくしきもの」 単元の言語活動 「美」の表現の移り変わりを調べる 【漢文編】 ◇近体詩 香炉峰	・作者である清少納言独特の感性を味わう。 ・「美」を表す言葉の移り変わりを調べ、古語と現代語の違いについて考える。 ・漢詩の響きやリズム、修辞などの表現の特色を理解する。	夏季課題提出 確認テスト
	10	【古文編】 ◇物語 源氏物語「光源氏誕生」「小柴垣のもと」 古文に関する評論「源氏物語を読む」	・出来事の展開や人物の心情を捉え、表現の特色を読み味わう。 ・敬語法を理解する。	中間考査
	11	【漢文編】 ◇史話・史伝 史記「鴻門之会」「四面楚歌」	・漢文句形や漢字の意味・用法を理解する。 ・登場人物の言動や行動から心情・考え方や生き方を読み取る。	
	12	単元の言語活動 『史記』の登場人物の心情と場面を想像して群読する	・『史記』の読解をふまえて登場人物の心情と場面を想像して群読する。 ・漢文の読みやリズムを身に付ける。	期末考査 課題学習
第3学期	1	【古文編】 ◇物語 大鏡「南院の競射」	・歴史物語を読み、史実とは異なる豊かな物語性や生き生きとした人物像を読み取る。 ・敬語における敬意の方向を確認する。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	【古文編】 ◇詩歌 和歌・歌論「古今和歌集 仮名序」 ◇近世の文学 鹿の子餅	・和歌の修辞や表現の面白さを理解し味わう。 ・近世の咄本を読み、物語の展開の面白さを味わう。 ・商人や奉公人について知り、作品の読みを深める。	
	3	【漢文編】 漢文の名句・名言 単元の言語活動「漢文の名句・名言について随筆を書く」	・漢文の名句・名言を読むことを通して、自分の考えを広げたり深めたりする。	学年末考査 課題学習

教科名	地 理 歴 史		科目名	日 本 史 探 究		必修選択				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	特進選抜・特進	コース	4	単位	文 系
教 科 書（発行所）		『詳説日本史』（山川出版社）								
副 教 材（発行所）		『新詳日本史』（浜島書店）・『日本史一問一答【完全版】3rd edition』（東進ブックス）								

学 習 目 標		歴史総合での学習を踏まえ、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 【探究】古代社会と海外との交流 / 木簡から古代国家を探る 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	確認テスト
	5	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	中間考査
	6	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	
	7	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 【探究】絵画から中世社会を探る	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第6章 武家政権の成立①	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	夏季課題提出 確認テスト
	10	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	中間考査
	11	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開①	1 織豊政権 2 桃山文化 【探究】生類憐れみの令からみる江戸時代の社会の変化 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	
	12	第9章 幕藩体制の成立と展開②	3 幕政の安定	期末考査 課題学習
第 1 学 期	1	第9章 幕藩体制の成立と展開③	4 経済の発展 5 元禄文化	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	第10章 幕藩体制の動揺①	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道	
	3	第10章 幕藩体制の動揺②	4 化政文化	学年末考査 課題学習

教科名	地 理 歴 史		科目名	世 界 史 探 究		必修選択				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	選 抜 α・選 抜・進 学	コース	4	単位	文 系
教 科 書（発行所）			「世界史探究」実教出版							
副 教 材（発行所）			「最新世界史図説 タペストリー 二十三訂版」(帝国書院)「時代と流れで覚える！世界							

学 習 目 標		世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
	思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用 の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
留 意 事 項		ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史が捉えられることに気付かせる。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 古代文明	1 農耕と牧畜のはじまり 2 オリエント文明 3 インダス文明 4 中国文明	準備課題提出 確認テスト
	5	第2章 東アジアと中央ユーラシア①	1 春秋・戦国時代の変動 2 中国古代帝国と東アジア 3 中央ユーラシアの国家形成	中間考査
	6	第2章 東アジアと中央ユーラシア② 第3章 南アジアと東南アジア	4 胡漢融合帝国の誕生 1 インド古典文化の形成 2 古代の東南アジアと海のシルクロード	
	7	第4章 西アジアと地中海周辺 ①	1 オリエントの統一 2 ギリシア文明 3 ヘレニズム時代	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第4章 西アジアと地中海周辺 ②	4 ローマ帝国 5 西アジアの国々と諸宗教	夏季課題提出 確認テスト
	10	第5章 西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	1 ビザンツ帝国とギリシア正教圏 2 ラテン＝カトリック圏の形成と展開 3 イスラーム圏の成立 諸地域の交流と再編への問い	中間考査
	11	第2部 諸地域の交流と再編 第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ①	1 イスラーム圏の多極化と展開	
	12	第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ②	2 ラテン＝カトリック圏の拡大 キリスト教圏とイスラーム圏 ―「衝突」と「交流」 3 ラテン＝カトリック圏の動揺と秩序の変容	期末考査 課題学習

第 3 学 期	1	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編①	1 中央ユーラシア諸民族と東アジアの変容 2 モンゴル帝国の成立	冬季課題提出 確認テスト
	2	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編②	●13世紀の世界 ―モンゴルの衝撃と東西交流 3 東南アジア諸国の再編 4 海域世界の展開と大交易圏の成立	
	3	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編③	ACTIVE 4 大交易圏の成立と ムスリム=ネットワーク	学年末考査 課題学習

教科名	地 歴 公 民		科目名	公 共		必修				
科 別	普 通	科	学 年	2 年	コース名	特 進 選 抜	コース	2	単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）		公共(東京書籍)								
副 教 材（発行所）		公共ワークノート(東京書籍)、最新図説政経(浜島書店)								

学 習 目 標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。また、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、公正に判断する力を身に付け、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
留 意 事 項	各学期の定期考查では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。また現代の諸課題を探究する際のレポートを学期に1回程度課し、評価のための資料とします。授業中の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容も評価のための資料となります。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1部「公共」のとりら 第1章 公共的な空間をつくる私たち (1)現代社会に生きる青年 (2)社会的な関係のなかで生きる人間	(1) 1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画 (2) 1 個人として尊重される人間 2 社会的な存在としての人間 3 伝統・文化のなかの人間	
	5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理 1 公共的な空間における協働とは 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開	中間考查 課題提出
	6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち①	1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割	
	7	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち②	5 政治参加と選挙 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	期末考查
第 2 学 期	9	第2章 法の働きと私たち テーマ1 法や規範の意義と役割 テーマ2 市民生活と私法 テーマ3 国民の司法参加	1 法と社会規範の役割 2 法の成立と適用 1 市民生活と法 2 多様な契約 3 消費者の権利と責任 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の意義	夏季課題提出
	10	第3章 経済社会で生きる私たち テーマ1 現代の経済と市場 テーマ2 市場経済における金融の働き テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	1 私たちと経済 2 市場経済のしくみ 3 国民所得と経済成長 1 金融のしくみと働き 2 中央銀行の役割と金融環境の変化 1 財政の働き 2 財政の課題 3 社会保障の考え方 4 社会保障の課題とこれから	中間考查 課題提出
	11	第4章 私たちの職業生活 テーマ1 働くことの意義と職業選択 テーマ2 労働者の権利と雇用・労働問題	1 働くということ 2 多様な職業選択 1 労働者の権利 2 現代の雇用・労働問題	
	12	第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ1 国際社会のルールとしくみ	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割	期末考查
第 3 学 期	1	テーマ2 国際社会と平和主義 テーマ3 国際平和への課題	1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本 1 現代の紛争とその影響 2 平和な国際社会に向けて	冬季課題提出

3 学 期	2	テーマ4 グローバル化する国際経済	1 貿易のしくみ 2 国際金融のしくみと動向 3 グローバル化と今日の国際経済 4 国際経済の諸課題	
	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	1 探究のイメージをつかもう 2 探究プロセス	期末考査

教科名	数 学		科目名	数 学 II		文系必修		
科 別	普 通	科 学 年	2 年	コース名	特 進 選 抜	コース	3 単位	文 系
教 科 書（発行所）		深進数学Ⅱ（啓林館）						
副 教 材（発行所）		GraspⅡ（啓林館）						

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式	1、3次の乗法公式と因数分解 2、二項定理 【探求】パスカルの三角形の特徴 3、多項式の除法 4、分数式の計算	
	5	第2説 式と証明 第3節 高次方程式	1、恒等式 2、等式の証明 3、不等式の証明 1、複素数	中間考査
	6	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線	2、2次方程式の解と判別式 3、2次方程式の解と係数の関係 4、剰余の定理と因数定理 5、高次方程式	
期	7	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域	1、直線上の点 2、平面上の点 3、直線の方程式 4、2直線の関係 1、円の方程式 2、円と直線 1、軌跡 2、不等式の表す領域	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数	1、一般角 2、弧度法 3、一般角の三角関数 4、三角関数の相互関係 5、三角関数のグラフ 6、三角関数を含む方程式・不等式	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2節 三角関数の加法定理	1、三角関数の加法定理 2、2倍角・半角の公式 3、三角関数の合成	中間考査
	11	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数	1、指数の拡張 2、指数関数	
	12	第2節 対数と対数関数	1、対数 2、対数関数 3、常用対数	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	1、平均変化率と微分係数 2、導関数 3、接線の方程式 1、関数の増減 2、方程式・不等式への応用	
	2	第3節 積分	1、不定積分 2、定積分 3、面積と定積分	学年末考査 課題学習
	3			

教科名	数 学		科目名	数 学 II			理系必修				
科 別	普 通		科 学 年	2	年	コース名	特 進 選 抜	コース	4	単位	理 系
教 科 書（発行所）		深進数学Ⅱ（啓林館）、深進数学Ⅲ（啓林館）									
副 教 材（発行所）		GraspⅡ（啓林館）、GraspⅢ（啓林館）									

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明（表現）することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価（自己評価）・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をもて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式	1、3次の乗法公式と因数分解 2、二項定理 【探求】パスカルの三角形の特徴 3、多項式の除法 4、分数式の計算	
	5	第2説 式と証明 第3節 高次方程式	1、恒等式 2、等式の証明 3、不等式の証明 1、複素数	中間考査
	6	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線	2、2次方程式の解と判別式 3、2次方程式の解と係数の関係 4、剰余の定理と因数定理 5、高次方程式 1、直線上の点 2、平面上の点 3、直線の方程式 4、2直線の関係	
	7	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域	1、円の方程式 2、円と直線 1、軌跡 2、不等式の表す領域	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数	1、一般角 2、弧度法 3、一般角の三角関数 4、三角関数の相互関係 5、三角関数のグラフ 6、三角関数を含む方程式・不等式	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2節 三角関数の加法定理	1、三角関数の加法定理 2、2倍角・半角の公式 3、三角関数の合成	中間考査
	11	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数	1、指数の拡張 2、指数関数 1、対数 2、対数関数	
	12	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	3、常用対数 1、平均変化率と微分係数 2、導関数 3、接線の方程式 1、関数の増減	期末考査 課題学習
第 1 学 期	1	第3節 積分	2、方程式・不等式への応用 1、不定積分 2、定積分 3、面積と定積分	

3 学 期	2	【数学Ⅲ】 第1章 数列の極限 第1節 数列の極限 第2節 無限級数	1、無限数列と極限 2、無限等比数列 1、無限級数 2、無限等比級数 3、無限級数の性質	学年末考查 課題学習
	3			

教科名	数 学		科目名	数 学 B			文系必修				
科 別	普 通		科 学 年	2	年	コース名	特 進 選 抜	コース	2	単位	文 系
教 科 書（発行所）			深進数学B(啓林館)								
副 教 材（発行所）			GraspB+C(啓林館)、領域別パーフェクトテキスト『ベクトル』								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列	1、数列とその項 2、等差数列 3、等比数列	
	5	第2節 いろいろな数列	1、和の記号Σ 2、累乗の和とΣの性質 3、階差数列	中間考査
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法	4、数列の和と一般項 5、いろいろな数列の和 1、漸化式	
	7		2、数学的帰納法	期末考査 課題学習
第2学期	9	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1、確率変数と確率分布 2、確率変数の期待値 3、確率変数の分散・標準偏差	夏季課題提出 確認テスト
	10		4、確率変数の和と期待値 5、独立な事象と独立な確率変数 6、二項分布	中間考査
	11	第2節 正規分布	1、連側的な確率変数 2、正規分布	
	12	第3節 区間推定と仮説検定	1、母集団と標本 2、推定 3、仮説検定 4、身のまわりの問題への活用	期末考査 課題学習
第3学期	1	【領域別パーフェクトテキスト『ベクトル』】 第1節 ベクトルとその演算	1、ベクトルの和、差、実数倍 2、ベクトルの成分 3、ベクトルの内積	

3 学 期	2	第2節 ベクトルと図形	1、位置ベクトル 2、位置ベクトルと図形 3、ベクトル方程式	学年末考査 課題学習
	3			

教科名	数 学		科目名	数 学 B			理系必修			
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	特 進 選 抜		コース	3 単位	理 系
教 科 書（発行所）		深進数学B(啓林館)、深進数学C(啓林館)								
副 教 材（発行所）		GraspB+C(啓林館)								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をもて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列	1、数列とその項 2、等差数列 3、等比数列	
	5	第2節 いろいろな数列	1、和の記号Σ 2、累乗の和とΣの性質 3、階差数列	中間考査
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法	4、数列の和と一般項 5、いろいろな数列の和 1、漸化式	
	7		2、数学的帰納法	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1、確率変数と確率分布 2、確率変数の期待値 3、確率変数の分散・標準偏差	夏季課題提出 確認テスト
	10		4、確率変数の和と期待値 5、独立な事象と独立な確率変数 6、二項分布	中間考査
	11	第2節 正規分布	1、連側的な確率変数 2、正規分布	
	12	第3節 区間推定と仮説検定	1、母集団と標本 2、推定 3、仮説検定 4、身のまわりの問題への活用	期末考査 課題学習
第 1 学 期	1	<数学C> 第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1、ベクトル 2、ベクトルの和、差、実数倍 3、ベクトルの成分	

3 学 期	2		4、ベクトルの内積	学年末考査 課題学習
	3			

教科名	化 学		科目名	化 学		理系必修					
科 別	普 通		科 学 年	3	年	コース名	特進選抜	コース	4	単位	理 系
教 科 書（発行所）			化学基礎(数研出版), 化学(数研出版)								
副 教 材（発行所）			セミナー化学基礎＋化学(第一学習社), フォトサイエンス化学図録(数研出版)								

学 習 目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な見方や考え方を養う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや実験、課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	・元素の分類と周期表 ・水素と貴ガス元素、ハロゲン元素、酸素と硫黄、窒素とリン、炭素とケイ素 〈実験〉ハロゲンの酸化力の比較 〈実験〉硫酸の性質	確認テスト 実験レポート
	5	第2章 金属元素(Ⅰ)典型元素 第3章 金属元素(Ⅱ)遷移元素	・アルカリ金属元素、アルカリ土類金属元素、アルミニウムとスズと鉛 ・遷移元素の特徴 ・鉄、銅、銀、金、亜鉛、クロム、マンガン、その他の遷移元素 ・金属イオンの分離と確認	確認テスト 中間考査
	6	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類 第2章 脂肪族炭化水素	・有機化合物の特徴と分類 ・有機化合物の分析 ・飽和炭化水素、不飽和炭化水素	確認テスト
	7	第3章 アルコールと関連化合物	・アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸、エステルと油脂 〈実験〉酢酸エチルの性質を調べる	確認テスト 実験レポート 期末考査
第 2 学 期	9	第4章 芳香族化合物	・芳香族炭化水素 ・フェノール類と芳香族カルボン酸、芳香族アミンとアゾ化合物 ・有機化合物の分類 〈実験〉フェノールとアルコールの性質	確認テスト
	10	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	・高分子化合物の構造と性質 ・糖類、アミノ酸とタンパク質、核酸 〈実験〉単糖・二糖の性質 〈実験〉タンパク質の性質	確認テスト 実験レポート 中間考査
	11	第3章 合成高分子化合物 演習	・合成繊維、合成樹脂、ゴム 〈実験〉ナイロン66の合成 ・入試問題演習	確認テスト 実験レポート
	12	演習	・入試問題演習	期末考査
第 3 学 期	1			

3 学 期	2			
	3			

教科名	理 科	科目名	物 理	必修選択
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名
			特 進 選 抜	コース
			4	単位
理 系				
教 科 書（発行所）	物理(東京書籍)			
副 教 材（発行所）	新課程版 セミナー物理基礎＋物理			

学 習 目 標		自然の事物・現象に対する関心や探究心を高めるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。また、これまで学んだことを数学的に表現し、問題に対し解答を与えることができる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題、ノート提出等の実施時期については、教科担当者が指示を行う。 実験は授業進度の状況を見ながら行う。その際のレポートは他人の物を丸写しにしたりしないこと。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 1節 静電気 2節 電場(電界)	電気を帯びた粒子が受ける力について学ぶ。 電場について理解する。	
	5	3節 電位 4節 電界の中の物体 5節 コンデンサー	電位について理解する。また、電場の中の物体の運動について理解する。	
	6	2章 電流 1節 電流	簡単な電気がいりよを流れる電流の様子について理解する。	
	7	2節 直流回路	等価回路を用いたり、キルヒホッフの法則を用いたりしながら、回路について理解する。	
第 2 学 期	9	3章 電流と磁場 1節 磁場(磁界) 2節 電流が作る磁場 3節 電流が磁場から受ける力(電磁力)	磁場の定義について理解する。また、電流が作る磁場についても理解する。	
	10	4節 ローレンツ力 4章 電磁誘導と電磁波 1節 電磁誘導	ローレンツ力について学ぶ。 電磁誘導の法則について学ぶ。	
	11	2節 自己誘導と相互誘導 3節 交流 4節 電磁波	自己誘導・相互誘導について理解し、交流についても理解する。	
	12	4編 原子	原子分野について深く学び、理解する。	
第 1 学 期	1			

3 学 期	2			
	3			

教科名	理科	科目名	生物	選択					
科別	普通	科 学 年	2 年	コース名	特 進 選 抜	コース	4	単位	理系選択
教科書（発行所）		高等学校 生物(啓林館)							
副教材（発行所）		新課程版 セミナー生物基礎＋生物(第一学習社)							

学 習 目 標		生物や生命現象についての観察,実験や課題研究などを行い,自然に対する興味, 関心や探究心を高め,生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的な自然観を育成する。演習を通じて,大学入試問題を解凍できる能力を育成する。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	生物や生物現象についての理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)
留 意 事 項		単元別の小テストや課題, ノート提出等の実施時期については, 教科担当者が指示を行う。 実験は授業進捗の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については, A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源 第2節 生物界の変遷と地球環境の変化	生命の起源と生物進化の道筋について学び, 生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。	
	5	第2章 有性生殖と遺伝的多様性 第1節 有性生殖 第2節 遺伝子の多様な組み合わせ	減数分裂による遺伝子の分配と受精により, 遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに, 遺伝子の連鎖と組換えについても理解する。	
	6	第3章 進化のしくみ 第1節 突然変異と進化 第2節 進化の要因 第4章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統	進化がどのように裏づけられ, そのしくみがどのように説明されているかを学ぶ。生物の分類の方法, 系統を明らかにする方法, 現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	
	7	第4章 生物の系統 第2節 3ドメイン 第3節 細菌ドメイン 第4節 アーキアドメイン 第5節 真核生物ドメイン	生物の分類の方法, 系統を明らかにする方法, 現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	
第2学期	9	第5章 生命と物質 第1節 物質と細胞	細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	
	10	第5章 生命と物質 第2節 生命現象とタンパク質	細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	
	11	第6章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼 吸	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ, 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	
	12	第6章 代謝 第3節 光合成	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ, 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	
第3学期	1	第7章 遺伝現象と物質 第1節 遺伝情報の複製	DNAの構造, 遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ, そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	

3 学 期	2	第7章 遺伝現象と物質 第2節 遺伝子の発現 第3節 遺伝子の発現調節	DNAの構造, 遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ, そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	
	3			

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修		
科 別	普 通	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）		新高等保健体育(大修館)						
副 教 材（発行所）								

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【ハンドボール】 A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	・ゴールポストやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	6	・体育理論	・スポーツにおける技術と戦術・戦略 ・スポーツにおける技能と体力	
	7			
第 2 学 期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・球技 【バレーボール】 A) 用具の扱い B) ボールコントロール キャッチボール C) 基本技能 アンダーハンドパス オーバーハンドパス 複合パス D) 攻撃 スパイク サーブ E) ルールを知る F) ゲーム(戦術練習)	・バレーボールの基本技術であるアンダーハンドパスとオーバーハンドパスの技術を身に付ける。 ・また、キャッチボールを行いながら、全身のストレッチと、スパイク動作のミートも練習する。 ・ネットを張る。安全に留意し協力して準備するよう心掛ける。 ＜スパイク＞ ステップ練習では2歩助走で練習する。ボールを頭上でキャッチ→両手首を使って逆コートに返球→片手で返球する→ミートして返球 ＜サーブ＞ アンダーハンド・サイドハンド・フロッターサーブの順に練習する ・ソフトバレーコートを作り、4対4のゲームを行う。 ・6対6のゲームを行う ・5体力トレーニング 6運動やスポーツでの危険予知と安全確保 について理解する ・技術の上達過程と練習の考え方	
	11		・効果的な動きのメカニズム ・体力トレーニング	
	12			
第 1 学 期	1	・体づくり運動 ・体育理論	・デッドリフトの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。 ・運動やスポーツでの危険予知と安全確保	

3			
学	2		
期	3		

教科名	保 健 体 育		科目名	保 健		必修		
科 別	普 通	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）		新高等保健体育(大修館)						
副 教 材（発行所）								

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価 価	知 識 ・ 技 能	生涯を通じた健康や体育・スポーツの基礎となる考え方を理解しているかどうかをICTを活用した小テストや、授業中のワークシートへの取り組みで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた保健体育の知識や技能を実践できているか、自分の考えを説明(表現)することができるかをグループワークやICTを活用して評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、保健体育の正しい知識に基づき判断しようとして、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用して評価する。
留 意 事 項		日頃より保健分野で扱う項目に対し興味・関心を持ち、ニュース・新聞記事等に目を向けること。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考えと成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる健康づくり	・日本における健康課題の変遷 ・日本における疾病構造の変化とその要因 ・健康に関する考え方 ・ヘルスプロモーションの考え方 ・健康の成り立ちに関わる様々な要因 ・健康を守り、育てる環境	
	5	4 健康に関する意思決定・行動洗濯 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復	・意思決定・行動選択と健康との関係 ・時代や地域で変化する感染症 ・感染症予防の三原則 ・性感染症、エイズとは ・生活習慣病とは ・よりよい意思決定・行動選択の方法 ・現在、特に問題となっている感染症 ・現代の感染症発生予防とまん延防止のための対策 ・性感染症、エイズを予防するための対策 ・生活習慣病の予防と回復のための取り組み	
	6	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康	・身体活動、運動と健康の関係 ・食事と健康の密接な関係 ・休養、睡眠と健康の関係 ・がんの予防と治療 ・喫煙による健康影響 ・身体活動、運動の実践と社会環境の整備 ・健康的な食生活の実践と社会環境の整備 ・健康づくりのための休養・睡眠の確保 ・がんに関する社会的な取り組み ・喫煙を開始する様々な要因と依存症	
	7	14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	・たばこ問題への対策 ・飲酒を開始する様々な要因と依存症 ・精神疾患とはどのようなものか ・心の不調の早期発見とセルフケア ・心の健康社会の実現を目指して ・飲酒による健康影響や社会問題 ・不適切な飲酒を防止するための対策 ・主な精神疾患とその特徴 ・自分だけで悩まず助けを求めることの大切さ	
第 2 学 期	9	2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成	・事故とその被害 ・交通事故防止のための取り組み ・自他の安全を確保する行動 ・事故の発生に関連する要因 ・交通事故を起こした場合の責任と補償 ・安全を確保する社会の取り組み	
	10	4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当 3単元 生涯を通じる健康 1 思春期と健康	・応急手当の意義 ・心肺蘇生法の意義 ・日常的なけがの応急手当 ・思春期における体の変化と性機能の成熟 ・救急医療体制の仕組み ・心肺蘇生法行い方 ・熱中症の予防と応急手当 ・思春期における体の変化と健康課題	
	11	2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康	・性意識の変化と異性の尊重 ・結婚、婚姻状況と健康 ・受精、妊娠、出産 ・家族計画の意義 ・加齢による心身の変化 ・性に関する情報と性行動の選択 ・夫婦関係、親子間家と健康 ・母子の健康のために ・避妊法の選択と人工妊娠中絶 ・中高年期を健やかに過ごすために	
	12	7 高齢社会に対応した取り組み 8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり	・高齢者を取り巻く状況 ・働くこと(労働)の意義と働き方の変化 ・日本における労働災害の推移 ・職場における健康の保持、増進活動 ・高齢者を支える社会の取り組み ・働く人における健康問題の現状 ・労働災害を防止するための仕組み ・日常生活における健康の保持、増進活動	
第 3 学 期	1	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対策 4 環境衛生に関わる活動	・大気汚染による健康への影響 ・水質汚濁による健康への影響 ・環境汚染の防止とその対策 ・安全な飲み水の供給と汚水の処理 ・地球規模の大気環境問題 ・土壌汚染による健康への影響 ・産業廃棄物の問題と新たな環境汚染の課題 ・生活環境守るごみ処理	

3 学 期	2	5 食品の安全性と健康	・食品の安全性と課題	・食品の安全性の確保	
		6 食品の安全性を確保する取り組み	・食品の安全性を確保する行政、生産、製造者の役割	・食品の安全性の確保と私たちの役割	
		7 保健制度とその活用	・生涯を通じて病気から人々の健康を守る保健行政	・医療制度と医療保険	
		8 医療制度とその活用	・健康の保持、増進のために活用できる保健サービス	・医療機関の役割と適切な活用	
		9 医薬品の制度とその活用	・医薬品の種類と承認制度	・医薬品の使い方	
	3	10 様々な保健活動や対策	地球規模の健康課題を解決する取り組み	・様々な機関・組織の活動	
		11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	・すべての政策や取り組みに「健康」の視点を	・多様な人や組織が参加して進める環境づくり	

教科名	外国語		科目名	英語コミュニケーションⅡ			必修	
科別	普通	科学年	2年	コース名	特進	コース	4単位	文理共通
教科書（発行所）	BLUE MARBLE English Communication Ⅱ（数研出版）							
副教材（発行所）	英文法・語法Vintage 4th Edition（いっずな書店） / 入門英文問題精講（旺文社）							

学習目標		1年次の「英語コミュニケーションⅠ」「論理・表現Ⅰ」での学習内容を土台とし、読むことに重点を置きながら、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を的確に理解する能力、英語で自身の意見を適切に表現し発表する能力を総合的に培う。
観点別評価	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題の概念や要点を英語で的確に理解し、これらを活用して自分の考えを英語で適切に表現したり伝えたりすることが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。（小テストにはスピーキングテストも含む）観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	Lesson. 1 Leadership in Modern Times	【文法事項】英語の構文Ⅰ（強調、倒置、S+be動詞の省略、無生物主語） 現代社会において求められるリーダーシップを、ネルソン・マンデラの例を基に考える。	準備課題提出 確認テスト
	5	Lesson. 2 The Diversity of Traditional Houses	【文法事項】未来完了形 世界の伝統家屋の特徴と、それらが現在果たす役割について学ぶ。	中間考査
	6	Lesson. 3 Improving Society with Avatar Robots	【文法事項】助動詞+have+過去分詞/進行形・完了形の受身形 社会の「孤独」を解消するために、ある男性が生み出した「分身ロボット」が与えた影響について考える。	
	7	Lesson. 4 Approaches to Food Waste	【文法事項】準動詞+完了形 / be to 不定詞 食品ロスの現状と、私たちにできる身近な取り組みを考える。また、考えたことをクラス内で発表する。	期末考査 課題学習
第2学期	9	Lesson. 5 Animals as Indispensable Partners	【文法事項】分詞構文 / 付帯状況のwith 私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物たちについて学び、動物との共生について考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	Lesson. 6 An Irish Poet on a Mission	【文法事項】関係副詞 / 複合関係詞 翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人 Peter MacMillanについて学び、言葉の美しさについて考える。	中間考査
	11	Lesson. 7 Be Free from Gender Bias	【文法事項】比較を用いた表現 私たちの身近に潜む男性/女性への偏見と、それをなくそうとする取り組みについて学び、よりよい社会づくりについて考える。	
	12	Lesson. 8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees	【文法事項】仮定法で用いるshould (suggest that S (should) do など) 難民保護に尽力した「小さな巨人」、緒方貞子を持つ信念について学び、難民問題について改めて考える。	期末考査 課題学習
第3学期	1	Lesson. 9 Tackling Global Warming	【文法事項】既習次項の復習 地球温暖化の新しい対応策である「ジオエンジニアリング」の利点・欠点について考える。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	Lesson.10 Keys to Finding Happiness	【文法事項】既習次項の復習 「幸せ」を自分で切り開く方法を科学的な視点から考え,「幸せ」に生きる とはどのようなことかを考える。	学年末考査 課題学習
	3	Optional Lesson. 1 The Good, the Bad and the Emmy Optional Lesson. 2 The Tales of Ise	【文法事項】既習次項の復習 物語文の読み方について学び, 英語独特の表現方法に触れながら教 養を深める。	

教科名	外国語		科目名	コミュニケーションスキルズ		必修		
科別	普通	科学年	2年	コース名	特進選抜	コース	2単位	文系
教科書（発行所）	Interactive 4skills CEFR B1 LEVEL（旺文社）							
副教材（発行所）	英文法・語法Vintage 4th Edition（いいずな書店） / 入門英文問題精講（旺文社）							

学習目標	大学受験において活用が進む様々な外部検定試験の形式に慣れることを目標とする。英文を聞いて内容を把握する能力、英文を読んで内容を理解する能力を培う。また、自分の考えや意見等を英語を用いて主体的に発信しようとする態度を養い、論理展開や表現方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える能力（話す・書く）を培う。	
観点別評価	知識・技能	自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現方法について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	学習した文法規則や表現方法を用いながら、英語で積極的に自分の意見を伝えようとしているかどうか、またその表現が適切かつ自然であるかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり学習を振り返ったりするなどの主体的に自らの学習を捉えている状況を、各種テストや課題、授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別的小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	LESSON 1 写真・グラフ・図表	- 写真やグラフの内容を聞き取る - グラフを含む長文を読み取る - 写真を描写する	準備課題提出 確認テスト
	5	LESSON 2 Eメール（ビジネスレター）・電話 LESSON 3 物語	- 対話や短い英文を聞き取る - Eメールや長文を読み取る - Eメールを書く - 留守番電話にメッセージを残す／イラストの展開を説明する	中間考査
	6	LESSON 4 掲示・広告・アナウンス LESSON 5 経済・社会問題	- アナウンスや対話、短い英文を聞き取る - 掲示や広告を読み取る／要約文を選ぶ／長文の空所を補充する - Eメールを書く／グラフを描写する - 掲示に関する質問に答える／イラストの展開を説明する	
	7	LESSON 6 科学・テクノロジー	- 質問に対して続くものを選ぶ／短い英文を聞き取る - 長文を読み取る - エッセーを書く - 自分の意見を述べる	期末考査 課題学習
第2学期	9	LESSON 7 環境問題 LESSON 8 自然・生物	- グラフの内容や対話、短い英文を聞き取る - 掲示や広告、長文を読み取る／長文の空所を補充する - 自分の意見を書く問題のアプローチ - イラストの展開を説明する／自分の意見を述べる	夏季課題提出 確認テスト
	10	LESSON 9 健康・医療 LESSON 10 教育・文化・歴史	- 対話や短い英文を聞き取る - 長文を読み取る - 自分の意見を書く - インタビューをする／自分の意見を述べる	中間考査
	11	外部検定対策 大学入試問題演習	- 外部検定試験の合格に向けた反復演習（面接練習を含む） - 大学過去問の総合実践演習	
	12	外部検定対策 大学入試問題演習	- 外部検定試験の合格に向けた反復演習（面接練習を含む） - 大学過去問の総合実践演習	期末考査 課題学習
第3学期	1	大学入試問題演習	大学過去問の総合実践演習	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	大学入試問題演習	・大学過去問の総合実践演習	
	3	大学入試問題演習	・大学過去問の総合実践演習	学年末考査 課題学習

教科名	外国語		科目名	英語演習			必修	
科別	普通	科学年	2年	コース名	特進選抜	コース	2単位	文理共通
教科書（発行所）	改訂版 和文分析から始める英作文 Steady Steps to Writing（数研出版）							
副教材（発行所）	英文法・語法Vintage 4th Edition（いいずな書店） / 入門英文問題精講（旺文社）							

学習目標		1年次の「英語コミュニケーションⅠ」・「論理・表現Ⅰ」で学習した文法規則や表現方法の復習と、発展的な文法事項・語法を学ぶことを通して、より高度な表現力を身につける。また、自分の考えや意見等を英語を用いて主体的に発信しようとする態度を培い、論理の展開や表現の方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える力を養う。
観 点 別 評 価	知識・技能	自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	学習した文法規則や表現方法を用いて、英語を用いて積極的に自分の意見を伝えようとしているかどうか、またその表現方法が適切であるかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項		単元別的小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	英作文のプロセス 和文英訳に慣れよう！－隠れているものを見抜く	・日本語と英語の構造の違いを理解し、英文を作り出すプロセスについて学ぶ。 ・主語の省略や、内容の補足など、和文英訳を行う際にポイントとなる点を確認する。	春季課題提出 確認テスト
	5	Part.1 動詞の表現 1. 時制(1) 2. 時制(2)	・現在、過去の習慣や状態を表す表現について学ぶ。また、現在形や過去形と進行形の表すニュアンスの違いについて考える。 ・現在完了形と過去形の違いについて学ぶ。また、完了形を学ぶことで過去と現在の繋がりについて考える。	中間考査
	6	3. 時制(3) 4. 助動詞(1)	・過去完了形や未来完了形について学び、表現の幅を広げる。また、時間の前後関係について意識する。 ・mayやcan, must, shouldといった助動詞が表す意味について学び、助動詞を上手く用いることで書き手の気持ちや判断を表せることを学ぶ。	
	7	5. 助動詞(2) 6. 条件・仮定(1)	・過去の事柄に対する「推量・非難・後悔など」を表す表現方法について学ぶ。(助動詞+have+過去分詞) ・直説法と仮定法の違いについて学び、表現力を高める。	期末考査 課題学習
	9	7. 条件・仮定(2) 8. 態	・仮定法過去や仮定法過去完了の基本的な形に加えて、事実と異なることを様々な表現で表す方法を知る。 ・能動態と受動態が表すニュアンスの違いについて考え、適切に運用できるようにする。	夏季課題提出 確認テスト
第2学期	10	Part.2 準動詞の表現 9. 不定詞・動名詞(1) 10. 不定詞・動名詞(2)	・不定詞と動名詞の基本的な用法について学び、適切に運用できるようにする。また、不定詞の三用法(名詞・形容詞・副詞)の使い分けについても考える。 ・形式主語のitを用いた構文や、seem (appear) to do / It seems (appears) that, S+V(の値)分け等を学び、表現の幅を広げる。	中間考査
	11	Part.3 名詞の表現 11. 分詞 12. 関係詞(1)	・分詞の叙述用法と限定用法、分詞構文(分詞の副詞的用法)について学び、表現の幅を広げる。 ・主格、目的格、所有格の関係代名詞を学習し、名詞のカタマリを表す方法について考える。	
	12	13. 関係詞(2)	・関係代名詞のwhatや関係副詞、ならびに関係詞の非制限用法(継続用法)と制限用法の違いについて学び、表現の幅を広げる。	期末考査 課題学習
	1	Part.4 構文表現 14. 比較	・原級、比較級、最上級の基本的な形を学習するとともに、比較表現を用いた構文について学び、表現の幅を広げる。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期		15.否定	・全否定や部分否定, hardlyやscarcely, rarelyやseldomといった準否定語を用いた否定表現について学び, 表現の幅を広げる。 ・入試問題を用いた文法・語法演習。	
	2	入試問題演習		
	3	入試問題演習	・入試問題を用いた文法・語法演習。	学年末考査 課題学習

教科名	情 報		科目名	情 報 I			必修		
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	特 進 選 抜	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）	情報 I（日本文教出版）								
副 教 材（発行所）	ライフイズテック レッスン(ライフイズテック株式会社) ※オンライン教材								

学 習 目 標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
留 意 事 項		各学期に1回実施する理解度確認テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 第1節 情報の特性 第2節 メディアの特性 第3節 問題解決の考え方 第4・5節 法的重要性と意義知的財産権/個人情報	第1節 情報の定義と特性 第2節 メディアの特性とメディア・リテラシー 第3節 1.問題の明確化 2.問題解決の流れと評価・改善 第4節 1.産業財産権 2.著作権 3.知的財産権の保護と活用 第5節 個人情報保護法と個人情報の取り扱いについて	
	5	第1章 第7・8節 情報技術の発展による生活と社会の変化 技法 第2章 第1節 メディアとコミュニケーション	第7節 ソーシャルメディアの特性と望ましい利用 第8節 1.Society 5.0の到来 2.情報社会の未来と問題解決 技法 問題解決の技法と表計算ソフトウェアによる表作成と活用 第2章 第1節 1.メディアの活用と特性 2.インターネットの発展 3.情報機器のパーソナル化とソーシャルメディア	
	6	第2章 第2節 情報のデジタル化 第3章 第1節 コンピュータのしくみ	第2章 第2節 1.コンピュータとデジタルデータ 2.文字・音・画像・動画・のデジタル化 3.データの圧縮 4.情報のデジタル化とデータ量 第3章 第1節 1.コンピュータの基本的な構成 2.ソフトウェアとOS	
	7	第3章 第1節 コンピュータのしくみ	第3章 第1節 3.CPUとメモリ 4.CPUによる演算のしくみ 5.2進法による計算	定期考査
第 2 学 期	9	第2章 第3節 情報デザイン 技法	第2節 情報デザインとその技法について 技法 Pythonを使ってみる 1.Pythonとは 2.Pythonを使う プログラムを作る 1.変数とは 2.入力されたデータの処理 3.処理の条件分岐	夏期課題提出 プログラミングは副 教材使用
	10	技法 第3章 第2節 アルゴリズムとプログラム	技法 プログラムを作る 4.処理の繰り返し 5.任意の関数を作る 第3章 第2節 1.アルゴリズム 2.アルゴリズムの基本と表現方法 3.プログラムの構成要素①②	前半は副教材使用
	11	第3章 第2節 アルゴリズムとプログラム 第3節 モデル化とシミュレーション 第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ	第3章 第2節 4.データの扱い 5.アプリケーションの開発 第3章 第3節 1.モデルとは 2.モデル化とシミュレーション 3.コンピュータを利用したシミュレーション 第4章 第1節 1.コンピュータネットワーク 2.ネットワークの接続	
	12	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ 第1章 第6節 情報社会と情報セキュリティ	第4章 第1節 3.プロトコル・プロトコルとIP 4.プロトコルとデータ転送のしくみ 第1章 第6節 1.サイバー犯罪の分類 2.情報セキュリティの確保 3.不正なソフトウェア 4.様々なインターネット詐欺	定期考査
第 1 学 期	1	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ 第2節 情報システムとデータベース	第4章 第1節 5.情報セキュリティの確保と対策 6.暗号化のしくみ 7.暗号化と認証技術 第2節 1.情報システム 2.情報システムにおけるデータベース	

3 学 期	2	第4章 第2節 情報システムとデータベース 第4章 第3節 データの活用	第4章 第2節 3.データベース管理システムとデータモデル 第4章 第3節 1.データの収集と整理 2.数値データの分析 3.テキストデータの分析 4.アンケート調査によるデータの収集	定期考査
	3	第4章 第3節 データの活用	第4章 第3節 5.量的データの分析手法 6.統計的検定	